



File
20

ヤマウチ調理食品株式会社

■ 所在地：大分市金池南2丁目10番8号
■ TEL：097-545-3600
■ 事業内容：各種弁当製造販売、回転寿司経営

■ 雇用人数：健常者309人 障がい者3人
■ 沿革：1976年 2月設立

仕事を通して自信をつけてやがて自立へ 衝突したら時間をかけて話し合い、問題解決へ

現在の障がい者の雇用状況等について

■ 雇用している障がい者の状況

聴覚障がい者が1人、知的障がい者2人。年齢は20歳代から30歳代。雇用期間は短い人で2年、長い人は10年以上勤めている。

聴覚障がい者はトライアル雇用期間を経て正式雇用へ。学校からの要請を受けて研修生を受け入れることもある。

■ どんな仕事をしているか

ベルトコンベアを流れてくる弁当に手際よくおかずを盛り付けたり、回収された弁当の空容器を洗浄器にセット・洗浄後の取り上げ、ごみの回収などを健常者の従業員とともに担当している。



ジャガイモの下ごしらえをする機械

障がい者を雇用して良かった点

調理や盛り付けなど、すべての仕事に対して健常者と同じことができるというわけではないが、指示したことに対してはとても素直に従ってくれる。

また仕事に対して一生懸命に取り組む姿勢がすばらしい。

コメント

■ 障がい者指導担当者

製造部 工場長 岡崎 研次さん



たまに機嫌の悪いときなど、苦勞させられるところもありますが、話し合えば解決するし、基本的にみんな素直なので、一緒に働いていると我が子のようにかわいく見えてきます。

仕事に対してはとても真面目で、立派な戦力として活躍してくれています。

■ 現職障がい者

第一製造部 蒲生 佐智さん



同社に勤めてもう11年になります。慣れるまではきつかったけれども、今は友人もできて楽しく働いています。

休みの日は家族や一人で大好きな映画を見て気分をリフレッシュさせます。また月に一回程度、障がい者のふれあい教室などに出かけて、ピーズ作りや押し花などを習っています。

仕事は大変だけれども、いろいろと覚えて長く勤めたいと思っています。



Let's Open up
the future together
OITA
2008

プロセス

1
STEP

■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

大分市にある博愛寮からの要請があり、知的障がい者を一人(蒲生さん)受け入れたのがきっかけ。

彼女の仕事に対するひたむきな姿勢が評価されて、その後も博愛寮や県内の養護学校などからの雇用を進めてきた。

途中、博愛寮が弁当製造部門を設立したことから、同社のノウハウを培った知的障がい者の従業員はそちらに移り、現在は3人に。



弁当を詰める作業はすばやく正確に

2
STEP

■ どんな問題点にぶつかったか

当時は知的障がい者に対する知識もなく受け入れたので、指導が大変だったと聞いている。今ある問題点は、本人の機嫌などもあるのだろうが、障がい者同士でたまに衝突することがある。

3
STEP

■ それに対してどんな改善策を取り、工夫してきたか

①うまいっているところ

まずは本人の話をきちんと聞いてあげること。周りの人の話も踏まえたうえで解決策を見出すようにすると、本人たちも納得してまた仕事に励むようになる。

適当にあいづちをうつのではなく、時間をかけてじっくり話し合うことが大切。



洗い場

②現在の社内でのコミュニケーション

各部署の現場担当者が中心となってサポートする体制をとっている。

大抵のことは現場で解決できるよう、日々コミュニケーションを図るようにしている。

③サポート体制

現場担当者が対応できない場合は工場長がきちんと話し合う時間と場所を設けるようにしている。

また、必要ならば家族と連絡を取り合いながら障がい者が働きやすいようサポートしている。



事務所の様子